



木屋瀬中学校だより



令和8年1月16日

第8号

文責 校長 牧島 伸司

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 木屋瀬 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できているようになっていくことが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

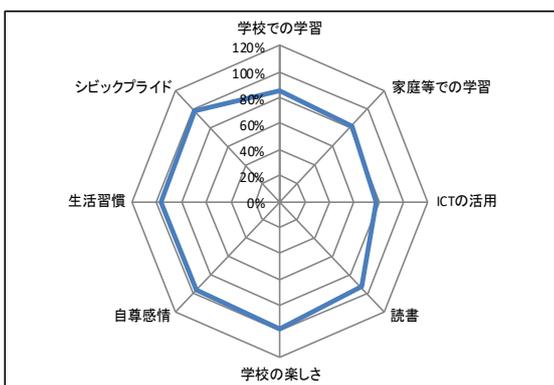
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国・県平均どちらも下回っているが、11問以上正答できている生徒の割合は全国・県どちらと比較しても同じ程度あった。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「書くこと」の問題は県平均との差が3.1ポイントであり、他の分野と比べてよくできていた。	
	努力が必要な問題	「読むこと」の問題は県平均との差が5.4ポイントであり、努力が必要と考えられる。	

数学	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国・県平均どちらも下回っているが、10問以上正答できている生徒の割合は全国・県どちらと比較しても同じ程度であった。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「図形」の問題は県平均との差が0.9ポイントであり、他の分野と比べてよくできていた。	
	努力が必要な問題	「データの活用」の問題は県平均との差が8.8ポイントであり、努力が必要と考えられる。	

理科	全体的な傾向や特徴など	・平均IRTスコアは全国・県平均をわずかに下回ったが、平均正答数では全国・県平均を上回っている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	生物の動画を見て、呼吸を行う生物を選択する問題が全国・県平均と比べて、高い正答率であった。	
	努力が必要な問題	設定した仮説が正しい場合の実験結果の予測を選択する問題が全国・県平均と比べて、高い正答率であった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析	
・ 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の問いに81.9%の生徒が強く肯定しており、この数値は全国・県平均と比べて高かった。	
・ 「学校に行くのが楽しい」、「友達関係に満足している」の問いにそれぞれ80%以上、90%以上の生徒が肯定的な回答をしている。	
・ ICTの活用に関しては引き続き課題がある。個別最適な学び、協同的な学びの実現のためには積極的な活用を実現していく。	
・ シビックプライドの質問事項では、全国・県平均とほぼ同じ数値であった。今年度、「いのちの授業」や「環境ウォーク」、「もちつき」など、地域と連携した行事を取り組んだ成果であると考えられる。	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 授業の中での意見交流では、従来の発表や班活動に加え、GIGA端末を活用し、生徒が情報活用能力を高め、自身の考えを表現できるようにする。
- 各授業者が木屋瀬中学校区で設定した授業五則を徹底して授業規律を意識することで、生徒が安心して学習へ向かう環境を整える。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 自分で計画を立てて、家庭学習を実践できるような習慣の定着を図る。
- 意識して読書する機会を増やすため、積極的に学校の図書館の利用を促した取組を実践する。
- 地域の行事への関心が高く、地域の方々との交流を通して社会貢献の重要性を理解する。